特集 広告・サインを考える

景観とは、単に美しい建物が存在するということではなく、周辺環境との関連において一体的に体験されるものです。広告物も景観を構成する大切な要素であり、周辺との調和を図ることで、より一層の効果が生まれます。金沢市では、中核市移行にともない屋外広告物条例を制定し、「都市景観条例」や「こまちなみ保存条例」と合わせて、より個性的なまちなみ形成を図っていきます。情報伝達手段としての本来の機能を充実させながら、個性的な景観形成を図るうえで、広告・サインのデザインはどうあるべきか。いろんな立場の方々からご意見をいただきながら、いっしょに考えていきたいと思っています。

金沢市屋外広告物条例について なぜ、広告物にルールが必要？

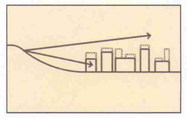
金沢のまちは、表情豊かな自然や起伏ある地形を背景に、歴史の香る個性豊かなまちと文化を育ててきました。これらは市民共有の財産であり、これを磨き上げることは身近な環境を快適で豊かなものとするだけでなく、個性的で魅力あふれるまちとして都市の活力を一層高めることにもつながります。こうした中、まちの景観の一部として屋外広告物に対する関心が非常に高まっています。

はり紙や看板などの広告物は、店舗の所在や商品、サービスなどの情報を人々に伝える働きがあるとともに、まちの活気や個性、にぎわいの演出に欠かせないものとなっています。しかし、広告物が無制限に氾濫したり良好な管理が行われないと、自然やまちの景観を損なうばかりでなく、落下・倒壊による危険や交通安全上の妨げになるなど、安全上の問題もでてきます。

このため、金沢市屋外広告物条例を制定し、景観の特徴や地域の土地利用の状況にあわせ、広告物に規格・基準などの一定のルールを定めています。

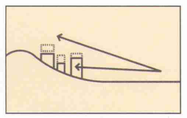
四つの視点

金沢らしい広告景観の形成のために



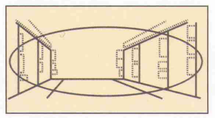
■視点1 市街地の俯瞰景観

兼六園や卯辰山などの高台の視点から考えると屋上広告の見え方がポイントになります。



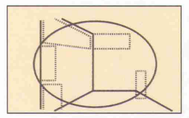
■視点2 市街地からの眺望景観

市街地からの眺望を考えると広告による台地の緑や山々の見え方がポイントになります。



■視点3 軸上の見通し景観

道路、河川など軸線の視点から考えると地上に設置される広告物や突出広告物の形、大きさがポイントになります。



■視点4 近景

歩行者の視点から考えると広告物の詳細な部分のデザインや材質、高さなどがポイントになります。

地域にあわせたルール

■禁止地域

商店の自家広告物などを除き、原則として広告物の表示ができない地域です。六つに分かれ、規格・基準に違いがあります。

●第一種禁止地域
伝統的街並み景観や自然景観の保全上重要な地域。金沢城址、長町武家屋敷群、卯辰山、浅野川、犀川などの地域です。

●第二種禁止地域
住宅地にふさわしい良好な景観を保全する地域。低層住居専用地域、中高層住居専用地域、公園などの地域です。

●第三種禁止地域
近隣商業活動と調和を図りながら伝統的街並み景観や自然景観の形成を図る地域。茶屋街、寺町大通り、犀川・浅野川沿いなどです。

●第四種禁止地域
大規模な商業活動と調和を図りながら伝統的街並み景観や自然景観の形成を図る地域。十間町、大手町、瓢箪町の一部などです。

●第五種禁止地域
北陸自動車道から展望可能な地域。道路から一〇〇mと五〇〇mの地域があります。

●第六種禁止地域
道路沿線の景観を保全する地域。●●産業道路、内川墓地へ通じる道路沿線などです。

■許可地域

禁止地域以外の場所は許可地域です。質が高くデザインセンスあふれる広告物の掲出により、金沢の風格を守ります。掲出にはあらかじめ許可が必要です。

■地域特性を際立たせるためのローカルルール

まちには、伝統的な風情を色濃く残す通り、歴史的建造物が連なる地域、活気あふれる繁華街など様々なところがあります。地域の特性をより高めるため、特別のローカルルールが広告物に適用される地区を指定または認定します。

●広告物活用地区
活力にあふれ、表情豊かなまちなみの形成を図るため、広告物の規制を緩和する地区。

●景観保全型広告整備地区
特徴的な地域景観を保全するため、特別のルールを設ける地区。

●広告物協定地区
一定地域の住民が協定した特別のルールを認定する地区。

市民のセンスがサインに生きる

金沢らしいまちづくり

メッセージは顔と同じものだとおもっている。百人集まればそこには百の顔がある。自分をはっきり分かってもらうには先ず顔、表情、そして言葉のニュアンスのだから感性のすべてをかけたメッセージが一番である。まちは生きている。飾りものではなく日々呼吸をしているのだから、そこに住む人は自分の顔だとおもってまちを意識しメイクして責任を持ち愛情をそそぐことである。まちの景観を他人事のように人まかせにすればきっとまちは悲しむ。まちの歴史は住む一人一人の自分史でもある。自分達の両方の手でしっかりと掴まえ、守り、時代の流れの中で上手に育てゆきたいものである。

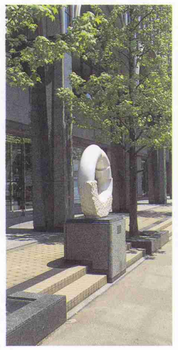
まちの景観について金沢市は美に積極的で中核市の指定がきまってからは一層拍車がかかっている。したがって景観の重要なポイントになるサイン、広告に対してもキメこまかい配慮がなされている。金沢というまは文化、文化を語るなら金沢というイメージは全国に知れ渡っている。美術工芸、芸道、茶道、華道その他諸々の文化の素舞台の活躍には目さましいものがあるが、と供に市民のささやかな暮らしの中にも豊かな個性と感性が勾う、いってみれば普段着の文化があって始めて文化都市です、と言っていえるのではなかろうか。サイン、広告の色彩や形式についても然りで企業、個人それぞれが創智をかけた自信と誇りをもって選定してゆけばいいものが出来るはずである。まちのサイン、広告の善し悪しは金沢市民センスのチェックポイントである。

シンプルは美の大切な要素。メッセージもやりすぎると雑音、騒音になる。手もとにある朝治に発行された「石川懸下商工便覧」を時折開いて楽しんでいる。業種商、時計商、紙商、呉服太物、定宿、貸座敷までがずらりと並ぶが、その店構えは何れも同じようだが各店独自の格調ある看板や外のれんや街灯などのデザインがすばらしい。古風もハイカラもたくみにとり入れられていて金沢というまちが当時から知何にすぐれた美意識と魅力的なメッセージをもっていたかがよくわかる。

これから若い人達を中心にまちなみが整備され現代感覚あふれたサイン、広告が花をそえ、ゆけば並成の金沢が次の時代へのすばらしいステップになることだろう。

敷波 澄子
（しきなみ すみこ）
随筆家

金沢市都市景観審議会委員、金沢市こまちなみ保存委員会委員。著書に「金沢味の四季」（共著）など。



特別座談会

いま、広告に求められるもの

より魅力的で、個性的な金沢の景観を築くうえで、屋外広告＝サインに求められるものは何か。各界を代表するゲストの方々に、金沢のまちなみとこれからのサインのあるべき姿について話し合っていただきました。

建物へのこだわりから美しいサインが生まれる

服部光彦 さん
（金沢美術工芸大学教授・金沢市屋外広告物審議会委員）

魅力的な景観をつくる要素

まずは、金沢の景観について、ご意見をうかがいたいのですが。

宮竹●街の景観を特徴づけるものとして二つの要素があると思います。一つは地形。平野にある町と丘陵にある町では、その景観は異なります。もう一つは生い立ちです。城下町だとか、門前町だとか、港町だとか、それぞれの生い立ちが町を性格づけ、景観に強いインパクトを与えています。

金沢の生い立ちは城下町といえるでしょうが、地形はどうでしょう。実は金沢は島の形をしているのです。小立野台地が胴体で、金沢城は尾羽の尾の部分、そして両脇に卯辰山と手町台地がある。湯涌を頭にするとちょうど鳥が羽を広げている形になるのです。かつて金沢の呼び名が、御山から尾山へと変化したのも、ここからきているのではないかと私は考えています。

金沢の景観を考える場合、このような地形はとても魅力的な要素といえるのではないでしょうか。全体を公園にするなど、うまく生かしていきたいですね。

服部●それと金沢は四季が明確にある。四季の風景も都市景観の大きな要素といえます。また、犀川と浅野川、そして市中を流れる用水も重要な要素。広坂通りの用水などいかにいいところにあるのに景観として目立たない。とても残念ですね。

宇野●二つの川と用水はほんとに魅力的ですよね。私は浅野川のそばで育ったんですが、桜の季節や、夏の夕暮れどきの浅野川大橋の景観がとても好きです。金沢らしい、美しい景観の一つというのではないでしょうか。

服部●街には、その街に対する地域住民のニーズが反映します。それが景観にも影響を与える。同じ東京の繁華街でも、銀座と新宿あるいは渋谷では、それぞれに街の賑やかさの質が違いますね。

宇野●銀座は普段着では行けない。きちっとした服装で背筋伸ばして歩こうと無意識に思ってしまいます。でも、渋谷などはラフな服装でもかまわない。そんな意識の共有がそれぞれの街の雰囲気や景観を生み育ててきたんでしょうね。

サインに対する意識は徐々に向上している

宮竹和彦 さん
（石川県屋外広告業協同組合副理事長・金沢市屋外広告物審議会委員）

金沢におけるサインの現状

服部●金沢にも、金沢に対するニーズがあって、それをきちんと認識したうえで、個性的で魅力ある景観を形成していく必要があります。

宮竹●人気の高い観光都市といえばハワイがありますよね。その理由を分析すると、一つは「猥雑さ」があげられるようです。都市には必ず整然とした部分と雑然とした部分が混在している。都市にはそれも必要なんですね。そこで広告の話です。（笑）

屋外広告物、サインの集中しているところは猥雑な雰囲気がある。最近、広告物は景観のバイ菌のようにいわれていますが、菌の中にも人間の体を維持していうえで大事な役割を果たしているものもあります。江戸時代の看板から、広告の基本的な形態は変わっていません。掛看板や、のれんなど。歴史的に見ても、人間が求めるところは昔とも今とも変わらないわけです。人間が生活をしていくうえでサインは絶対に必要なものであり、それをまず認めていただく。問題は、表現の方法やデザイン、周りとの調和であり、それがうまくできればサインも魅力的な景観を形成する要素になりうると私は考えています。

金沢らしい公共サインを

では、金沢のサインの現状はどうでしょうか。

宇野●美しく並んでいるとはいいがたいですね。（笑）

私は昨年から車に乗るようになったのですが、重要な交通標識が猥雑な企業広告の中に埋もれてしまっている。みんなが迷わず走っている感心しています。慣れているんでしょうね。私のように慣れない者はほんとに困ります。ということは、観光客も同じ思いではないでしょうか。

宮竹●言い訳をするわけではありませんが、十年ほど前から、業界の中でもサインが景観に重要な役割を果たすという意識は浸透してきています。近年つくられたサインについてはそんな考えが生かされているはずです。ところがそれは全体の一割ほど。それ以前のものが九割もあって、その中に非常に無神経なものがあるのが事実です。調和しているもの、必要なものはまちと残し、醜いもの、不要なものは整理していく。いま、その過程にあると考えています。

ユニークな公共サインで全国発信を！

宇野たまこ さん
（グラフィックデザイナー・金沢市屋外広告物審議会委員）

宇野●確かに新しいが●●が並ぶ郊外などには思わず写真を撮りたくなるような美しいサインがありますよね。それに比べて、昔からの繁華街である片町や兼六園などは醜いものが多い。

服部●広告物はこの時代にあっても表現のよしあしを指摘されるものです。テレビのCMでも「子どもも見ているのだから、過激な表現はやめてほしい」といった訴えが広告主やテレビ局に寄せられる。屋外広告に対しても同じように表現を指摘されるのは、公的な要素を多く含んでいるからです。チラシや雑誌は見なければそれで済んでしまうけれど、テレビCMや屋外広告はどうしても目に入ってくる。そのことをサインに携わられる方は再認識してほしいですね。県内の業者の方々、施主の方々に限っていえば、理解されてきているようですが…。

宮竹●サインは建物と一体のものであり、建物を装飾する、アクセサリーであると認識することが必要でしょうね。

服部●おっしゃるとおりです。建築物のオーナーは自分の建物に対してもっと自信を持ってほしい。また、自信を持てるような建物を建てるべきだと思います。自信を持てる建物であれば、変なサインをつけるようなことはしないはずです。

宇野●テナントにサインが必要であれば、設計の段階からそれを組込んで、サインと建物の調和を考えて建てるべきですね。

宮竹●つて喫茶店やレストランにはよくスポンサー付のサインがありましたが、最近はっきり減っています。それだけオーナー・景観にこだわりを持つようになったんでしょうか。

宇野●そういう意味では、ひがし茶屋街などはきれいですよね。お客さんも通り過ぎちゃうけれど、それでも変な看板をつけるよりはいいという意識。いま、そんなこだわりが求められています。

金沢らしい公共サインを

公共のサインについても、ご意見があればお願いします。

宇野●観光でいらっしゃる方々のために、わかりやすく印象に残るサインがほしいですね。ユニークで、素敵なものなら、金沢のサインはちょっとおもしろいって、全国へのPRにもなるでしょう。コンペにして、だれでも参加できるようにしたらいかがでしょうか。すばらしいアイデアが出てくるかもしれませんよ。

宮竹●それには素材が一つのポイントだと思います。ガラスや石、木、鉄、ステンレスなど、いろんなものを組み合わせることでおもしろいものができます。辰口町は三六集落あるんですが、それぞれの集落の入り口に石とステンレスでできた表示板が立っています。そこには各集落にまつわる物語が書かれてあるのですが、とても好評のようです。

宇野●オブジェでもあり、しっかりサインの役割も果たすというものですね。

宮竹●それがトータルとしてまとまってることが必要だと思います。金沢には観光板や標識がいくつもあるけれどデザインはバラバラです。

服部●県や市がそれぞれ独自にやっているからですね。

宮竹●除雪対策会議というものがありますよね。建設省と県と市で役割を決め、対策を進めていく。それと同じようにサイン対策会議というものをつくるのはどうでしょう。

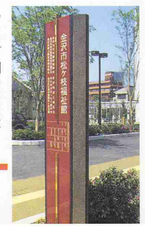
宇野●それに民間も入って、四者で検討していくのがいいのでは…。

服部●金沢らしい公共サインということですが。〝らしさ〟にこだわりすぎるとわかりにくくなる恐れがあります。ここからは金沢市だということを強調したいけれど、表示の書体や説明書が金沢らしいといってもそれでは読みにくい。ですから表示は全国統一で、素材やデザインに地域らしさを出していく。ローカリティとインショナリティ、それを一つのサインの中に共存させたほうがいいと思いますね。

宮竹●それとメンテナンス、立派なものをつくっても、埃りをかぶっていたり、排気ガスで汚れたりしているのが現状です。年に一度でも洗浄すれば随分違います。耐久性も高まっていますね。素敵なサインだと思うのですが、残念ながら埃りにまみれています。

宮竹●それから、表示している内容が古いものもある。町内案内板など、住人が変わってもそのままだったり。

やはり年に一度はしっかりメンテナンスをする必要がありますね。

宮竹●それと景観といえば夜についても考えていく必要があるかと思います。金沢の町はとても暗い。照明をうまく使っていけば幻想的な演出ができるのではないでしょうか。公共の案内板に照明をつけ、その照明が街灯を兼ねるようにする。それだけでも、金沢の町は随分明るくなると思います。

服部●行政に望むことといえば、歩道の整備です。風景を楽しみながらのんびり歩ける街にしてほしい。そうすることで市民の景観に対する関心はさらに高まり、屋外サインについての意識も変わっていくと思いますよ。